

ENOKI

えのき



子どもの国で遊ぼう！ 第44回 のんびり歩こう会

11月1日(日)「のんびり歩こう会」を催しました。今回は横浜市にある『子どもの国』まで遠出しました。大人が57名、子どもが45名と、百名以上の地域の方たちが参加しました。

『子どもの国』は多摩丘陵の自然を生かした広大な敷地の中に、スケールの大きなたくさんの遊具や牧場、こども動物園、プール、スケート場などを備え、サイクリングやアスレチックなどできて、一日ゆっくりと遊ぶことができる公園です。

子どもたちは急斜面の滑り台や長いローラー滑り台で思う存分遊びました。また、自然豊かな林の中、緩やかな丘を登り、下り、歩くと揺れる吊り橋を渡り、ちよつとしたハイキング気分も味わいました。牧場では、牛の鳴き声「モーッ！」と叫んで、どれくらい大きな声を出せるかを競うコンテストをやっていて、子どもたちも参加し、大いに盛り上がっていました。

高齢者の方たちも丘陵を散策し、昭和の趣が漂う、レトロな植物園を見学したり、この地が戦時中、軍の武器庫であったことの形跡を見つけて、思いを馳せたりしていました。

「のんびり歩こう会」は青少年育成委員会の事業の中でも最多の回数をもつ催しです。今後も、おおぜいの地域の方たちの参加により、世代を超えた楽しい交流の場となることを願い、事業を推進してまいります。

主催 早稲田地区青少年育成委員会
共催 榎町地区町会連合会
協力 榎町特別出張所

集団疎開の思い出

管野 晃

太平洋戦争も末期に近づいた昭和十九年の春のことだと思うが、日本軍は敗戦の色が濃くなり、マーシャル諸島にB29爆撃機の基地を設け日本本土空襲を本格化させて来たところである。東京では学童疎開という言葉が聞かれるようになって来た。

学童疎開というのは、戦争の災禍を避けるため大都市の国民学校児童(昭和十三年四月から、従来の尋常小学校が国民学校となり、昭和二十二年に現在の小学校となる)を農山村地域に集団的にまたは個人的に移動させることで、小学校生を町会単位で疎開させたことで、学童集団疎開というのが正式名称だと思っ

私は当時国民学校六年生でしたが、一度その時牛込区が箱根の岡田高原学園が疎開児童を募集していたので、ここは校外学習で何度か行ったことがあるので、知らない所へ行くよりは知っている所の方が良いと思い、ここへ行くことにした。この岡田学園の由来はまたいずれのこととする。戦後は特殊学級として長い間使われていた。

ご存知のように箱根は風光明媚なところで、箱根駅伝のコースでもある小涌園のところを左に曲がった旅館の三河屋の、右隣りで小涌園とは地続きである。箱根は観光地で天下の嶮で、田畑があるわけではないので食事もお腹いっぱいという

わけには行かなかったが、後で考えてみると小田原が近いせいか魚は食べられた。そのうち東京では集団疎開の準備が進み、その頃の記録はどこに残っている

と思うが、改代町、築地町、水道町は栃木県に疎開した。改代町は栃木県上野郡加蘇村下久我にある常眞寺というお寺へ行くことになった。現在は鹿沼市になってしまったのだろうか、現在の地図を見ても確認出来なかった。始めは四年生から六年生までが対象であつたらしいが、そのうち二年生と三年生も疎開させられて来た。常眞寺へ疎開した中に四年生の妹が入っていたので、そこへ合流することにしたので、着いた時の全員の記念写真には入っていなかった。

妹の話では、往路の国鉄鹿沼駅までは貨車で、鹿沼から下久我まではトラックだったと言っていた。当時でも東武日光線は走っていたし、バスも朝夕の二本ぐらひはあったのだが、子供達を疎開させるのに貨車とトラックとは酷いものである。疎開中にはそれを使って面会に来る親もあつた。

寺には地元で募集したお姉さんが三人おじさんが一人職員としていた。

寺での集団生活は始めの一週間は親が恋しいと泣いた子もいたが、そこは子供の柔軟性の大きいところか、すぐに集団生活にも慣れ、楽しいというところまではいかないが、いじめや喧嘩もなく、土地

の子供達との間にも大きな問題は無かつたと記憶している。これは幼いながらも自分たちの立場を自覚していたからではないだろうか。

全くの都会っ子が山間の農村での暮らしを始めたのだから、すべてが新しい体験であつたことには違いない。その体験を幾つか挙げてみたいと思うが、これは改代町の疎開児童に限ったことと断つておく。

秋になると害虫駆除か食料にするのか、田圃へ行ってイナゴ取りをやつた。小さな袋に二、三センチの太さの竹を縛り付け、取つたイナゴを竹の筒を通して袋へ入れる。入つたイナゴは逃げられないというわけである。次は稲刈りを初めて経験したが三時のおやつに出るサツマイモは美味しかった。冬になると麦踏みをした。どうでも良いことではあるが、今ではどうやっていいのか気になってしまふ。

ある時、村の人が野兎を二羽鉄砲で撃つてきてくれた。私は兎を食べたのは初めてで、今までに経験したことのない匂いには多少の抵抗があつたが、そんなことは言っていられない。貴重な蛋白質である。炊き込みご飯にしてくれたが美味しく頂いた。

ある日、リヤカーで薪かなにかを運べといわれ、特にすることもなかつたので六、七人で出かけた時である。お手伝いのおじさんがみかんを一つくれた。皮を剥いてみると人数に一房足りない。どうしようと思つたが、一人が皮ということになったが、全員が皮を希望したのでじゃんけんになったということがあつた。

当時、所(ところ)先生という方が寮長だったが、朝起きると乾布摩擦をやらさ

れたが、慣れて来るともの足りなくなり、わらの束子を東京から取り寄せてそれを使うようになった。

まず悩まされたのは蚤と虱で、蚤は畳に潜っているのか布団に住み着いているのか喰われれば痒いのは当たり前だが、布団の裏は蚤の糞の黒い痕が、赤飯に胡麻を振り掛けたたようになつていた。

虱は下着の縫い目に虱の卵が提灯行列のようにびっしりと産みつけられているのを一生懸命に潰した。虱は寮母さんが熱湯処理をしてくれたので収まつた。

私達の仲間にはいなかったが、他の組には東京へ脱走を試みるという事件があつたということは良く聞かれた。

私たちの寮で、一つ大きな悲しいことが起きてしまった。一人の女の子が腹痛を訴えたが、二、三日では直らなかつたので鹿沼からお医者さんを呼んで診てもらつたが、亡くなつてしまった。後で聞くところによると腸閉塞とか腸捻転ともいつていた。現在ならば此のようなことは間違つてもない。全体的には小さな事とは思ふが、この子に取つてみれば戦争の被害を最大に受けたことになる。終戦後から帰宅までの後日談はまたにする。

戦後70年の今、毎日のように、難民の話がテレビで報じられている。

戦争は何時の時代でも一番弱い処にしわ寄せが来る。それは子供達なのだ。理由など無い。戦争の無い平和な世界が続くことを祈るばかりである。

プロフィール

改代町在住 83歳

広報えのき編集長 管野 晃



第23回 地区内小学校対抗 ドッジボール大会



11月29日(日)、鶴巻小学校の体育館、校庭にて「地区内小学校対抗ドッジボール大会」が開催されました。

出場選手は105名。低学年8チームはA・Bブロックに分かれ、ブロックごとに総当たり戦を行い、終了後、順位決定戦を行いました。高学年は出場選手が少なかつたので、3チームの総当たり戦を3回行い、順位を決定しました。

低学年は16試合、高学年は9試合行いました。いずれの試合も白熱した好試合で、選手たちのボールを追い、投げる懸命な姿が印象的でした。会場に来てくださった家族の皆さんの応援も素晴らしく、試合の場を盛り上げてくれました。次回の「ドッジボール大会」にもおおいに参加してください。



● 低学年の部

優勝 江戸川小学校Bチーム

第2位 鶴巻小学校Aチーム

第3位 鶴巻小学校Bチーム

● 高学年の部

優勝 早稲田・江戸川小学校チーム

第2位 鶴巻小学校チーム

第3位 牛込仲之小学校チーム

● 主催…早稲田地区青少年育成委員会

● 協力…スポーツ推進委員

榎町特別出張所

毎日を元気に安全に過ごそう お楽しみ人形劇

12月12日(土)の午後、榎町地域センターにて「安全教室」と「人形劇」を開催しました。今回は参加が多く、会場には、幼児からお年寄りまで128名の方々が集まりました。

毎日を元気に安全に過ごせるように、牛込警察署の片岡さんが、子どもたち自身の身を守る標語「イカノオスシ」についてお話をしてくれました。

人形劇は「交通安全」と「あかずきんちゃん」が上演されました。子どもたちは物語をよく知っていて、音楽に合わせて拍手をうちながら楽しそうに観ていました。終了後は、あかずきんちゃんやオオカミ、おばあさん、狩人の人形がロビーにごあいさつに出てきて、子どもたちひとりひとりに握手をしてくれました。



わたしたちの町をきれいに！ 榎クリーンデー

私たちの住む町をきれいに掃除しましょう！

榎町地区全域で一斉清掃を行います。ほうきやちりと、ゴミ袋は各自で用意ください。

● 日時…3月6日(日) 午前9時～10時

● 集合場所等の詳細は、各町会の掲示板にてお知らせします。

● 共催…早稲田地区青少年育成委員会 榎町地区町会連合会



昔あそび もちもちの会



牛込第二中学校の生徒たちが地域の方々の交流を深めるために「昔あそび・もちもちの会」を開催します。もちつきその他に風揚げやコマ回し、羽つきなどの昔あそびも楽しめます。

ご家族やお友だちを誘って遊びに来てください。

● 日時…3月13日(日) 午前10時～午後1時

● 会場…牛込第二中学校

● 主催…早稲田地区青少年育成委員会

● 協力…牛込第二中学校

榎町子ども家庭支援センター



第14回
榎町
地域センター
まつり

平成27年10月25日(日)、天候にも恵まれ、榎町地域センターまつりを盛大に開催する事ができました。ご来場者の皆様、運営にかかわった皆様、ありがとうございます。



5年生		
最優秀賞	牛込仲之小	千歳 桃叶
優秀賞	早稲田小	西本 薫音
//	牛込仲之小	木庭 朱梨
奨励賞	江戸川小	織田 隼人
//	//	金子 蒼太
//	早稲田小	野津 萌
//	//	安西 朝海
//	//	黒田 燈子
//	//	大瀧 結楓
//	//	中村 真琴
//	鶴巻小	中村 祐允
//	//	白井 凜
6年生		
最優秀賞	早稲田小	勝部 真衣
優秀賞	鶴巻小	富永 真帆
//	牛込仲之小	丸田 碧音
奨励賞	江戸川小	武田 日南
//	//	岡田 月
//	早稲田小	神原 晴太郎
//	//	森岡 恒介
//	//	渡邊 勇仁
//	鶴巻小	中 ホシ
//	牛込仲之小	関本 幸太

平成27年度
「夏目漱石」暗唱コンクール

今年で第二回目となる、榎町地区町会連合会(会長・中村廣子)主催「夏目漱石」暗唱コンクールが実施されました。

コンクールは管内の小学校(江戸川小、早稲田小、鶴巻小及び牛込仲之小)の5年生と6年生の総勢290名が参加し、5年生は「坊っちゃん」、6年生は「吾輩は猫である」のそれぞれ冒頭部分から約800文字の文章を暗記して読み上げ、その正確性や聞き取りやすさなど暗唱の出来栄を競いあいました。

各学校予選を勝ち抜いて集った本審査会は、どの参加児童の暗唱も大変素晴らしい内容で、非常に高いレベルでの審査となりました。



子どもの生活実態に応じた体験の大切さ

早稲田小学校では、今年も、4年生が、総合的な学習の時間に、バリアフリー学習としてさまざまな体験授業を行いました。

今年から地域協働実施校となった早稲田小学校。バリアフリー学習も、地域協働事業の1つとして、保護者だけでなくスクールコーディネーターや地域の方の見守り、ご協力のもと、行われました。

校長先生も見守る中、「身の回りのバリアフリー」として、アイマスク体験と車いす体験をしました。小グループに分かれた体験では、今年初めて、校内だけではなく、校舎の周りもまわりました。アイマスクや車いす体験、相手の気持ちや状況を考えた介助体験、そして気づきの記録を順番に担当した子供たち。ちょっとした段差、何気なく停まっている自転車も「障害」になりうるなど、身の回りのバリアフリーを考える貴重な体験をしました。

その後、「心のバリアフリー」として、アイマスクをしてのブラインドサッカー体験、聴覚や視覚、身体に障害のある方との交流授業も行われました。

子どもたちにとって、実際に不便さを感じることに加え、障害のある方から直接お話を聞くことで何倍も心に響く授業となりました。

校長先生は、「今年初めて、公道に出るの体験にしたのは、『子どもたちにとって、より生活実態に応じた体験にしたい』という4年生担任の思いがあったからです。子どもたちからは『慣れ親しんでいる校内ではなく、校外に出るの体験となったので、より障害のある方の気持ちを理解することができた！』という声があがりました」とお話しされていました。



児童文学作家 丸田かね子さん母校訪問

10月の半ば頃、丸田かね子さんから牛込仲之小学校へ絵本5冊とお手紙が届きました。お手紙には、丁寧な文字で次のようなことが書かれていました。

「私は、昭和18年度の入学児童の一人です。前(さき)の対戦で戦火に追われ、家も友だちも失ってやむなく信州へ。以後、信州で育ちましたので貴校の卒業生にはなれませんでした。この手紙の続きには、その後教職の道を選ばれたこと、退職後に児童文学作家になられたこと、「はこちゃんのおひなさま」という自らの疎開体験をもとに書かれた作品が今年度4年生の国語の教科書(新宿区では使用していません)に掲載されたこと、11月に東京へ見えるのでそのときに母校訪問をなさりたいことが記されていました。そして、11月17日、ようやく母校訪問が実現しました。3・4年生を前に、「はこちゃんのおひなさま」の迫真の朗読と辛い疎開体験のお話をしてくださいました。その後、6年生を対象に、子供たちの質問に答える形で、戦争体験に基づく当時の厳しい現実を伝えていただきました。

子供たちからは、「草やどんぐりを食べていたと知り、驚きました。」「神田駅から牛込仲之小学校まで、赤い火が来たことびっくりしました。」「大きくなって地球を幸せにする仕事につきたいです。」「心に残ったのは、『私以外にも戦争で嫌な思いをした人はいっぱいいる。私はほんの一部です。』という言葉です。などの感想が発表されました。子供たちの心に丸田さんとの出会いが刻まれ、戦争について深く考える機会をいただきました。



「なかよし班活動」

江戸川小学校は、「よく考えやりぬく子」「明るくしようぶな子」「仲よく助け合う子」を教育目標として掲げています。「仲よく助け合う子」の育成として、異学年交流が本校の特色です。異学年交流の中でも、異年齢集団が取り組む「なかよし班」活動は、年間を通して計画的に取り組んでいる活動です。

「なかよし班」は、全校115名を6班に分け、各班1年生から6年生までの全学年が所属するよう構成されています。この班の中で協力の大切さを学ばせるとともに、思いやりの心を育てることをねらいとしています。また高学年としての自覚やリーダー性を育てることもねらいの一つとしています。

活動内容は、全校遠足など学校行事の中で取り組むものや、なかよし班遊びなど朝学習時に行われるものがあります。第一回は顔合わせと遊びの計画を立てます。事前に班長は班の旗を作り第一回の会に旗に込めた思い、意味を班員に伝え、「なかよし班」の一年間の活動がスタートします。各月1回は必ず行われます。班ごとの遊び、七夕の飾り、百十周年のお祝いの飾り作り、全校遠足やお弁当給食、落ち葉拾いなどバラエティーに富んでいます。活動が活発なため、休み時間でも異学年で一緒に遊ぶ姿をよく見かけます。学年が違ってもお互いのことがわかってきたのだと思う瞬間です。これらの積み重ねが江戸川小学校全体としてのまとまりにつながっています。

社会に出ると様々な年齢の人との関わりが必要になります。「なかよし班」活動が、これらの成長に少しでも役に立てばと期待しています。



高齢者クラブでいきいき 元気に暮らそう

15

榎町地区の高齢者クラブの最近の活動状況をお知らせします

1. 第28回区高連 グラウンドゴルフ大会

平成27年10月13日(火)戸山多目的運動広場において開催され、新宿区の45チームが参加しました。

榎町地区からの出場は8チームで、成績は11位の弁天町和老クラブ(137打)が最高でした。

他の参加クラブは次のとおりです。(成績順)

・早稲田永楽会・山吹会・薬王寺第一長寿会・原二わらく会・薬王寺第二長寿会
・原一あゆみ会・柳町すみれ会。以上

2. 平成27年度区高連 秋季高齢者福祉大会

平成27年11月12日(木)新宿文化センター大ホールにおいて開催され、新宿区の74組のクラブ、団体が参加して終日演芸を楽しみました。

榎町地区からは次のクラブが参加し、日頃の練習の成果を披露しました。(出演順)

・フオークダンス 原一あゆみ会10名
・リズム体操 あかぎ友の会 13名
・合唱 ・弁天町和老クラブ15名・原二わらく会10名・西鶴クラブ7名・山吹会6名
・薬王寺第二長寿会15名・早稲田永楽会15名・第一・第二友鶴会10名
・早稲田長寿会6名。以上

(資料提供：新宿区高齢者クラブ連合会)

「老人クラブ(高齢者クラブ)」

～100万人会員増強運動～ 展開中

老人クラブの魅力

1. 地域に新しい仲間ができます。
2. 知識や経験を生かし、新しい能力の発揮ができます。
3. 健康の保持・増進になります。
4. 社会活動への参画と貢献ができます。
5. 心の安らぎ、充実感が得られます。

— あなたの参加で楽しいクラブを —

(公益社団法人 東京都老人クラブ連合会 広報誌「都老連」第201号より)

「各クラブでは平成28年度 新入会員を募集中です。

入会される方は、3月中に入会手続きをお願いいたします。

スポーツ交流のお知らせ

ユニカール 輪投げ

日時 ① 2月7日(日)
② 3月6日(日)
③ 3月20日(日)

①③ 午前10時～12時

会場 榎町地域センター
4階 多目的ホール



ユニカールとは
カーペットの上でできるカーリング。
1チーム3人の2チームで、スタート
ラインから専用のストーンを滑らせ、
サークルの中心に近づけることを目
指すゲームです。
子どもから高齢者まで、どなたでも
簡単にプレイできます。

ショートテニス

日時 ① 2月14日(日)
② 3月13日(日)

①② 午後1時～4時

会場 早稲田小学校体育館

運動しやすい服装で、うわばきを
持参ください。

申込み・参加費は必要ありません

問合せ 黒川孔晴

TEL(3268)1777

主催 わせたスポーツ・文化協議会

コミュニティスポーツ大会

11月22日(日)にコミュニティスポーツ大会榎町地区大会が早稲田小学校で開催され、ビーチボールバレー、ユニカール、輪投げの3種目における熱戦が繰り広げられました。榎町地区大会の優勝チームは以下のとおりです。

- ビーチボールバレー ハッピークラブA
- ユニカール ショートテニス倶楽部
- 輪投げ(一般の部) 子どもひろば
- 輪投げ(50歳以上の部) 山吹町会

12月13日(日)、コズミックセンターにおいて区内10地区の各地区大会を勝ち抜いた上位チームによる「中央大会」が行われました。輪投げ(50歳以上の部)では、榎町Aチームが優勝、ユニカールではショートテニス倶楽部が準優勝、鶴西チームAが第三位になりました。

既に次回の優勝を目指して練習が始まっています。皆さんもコミュニティスポーツ大会に参加しませんか。



日赤榎町分団 感謝状

日赤榎町分団では、平成24年度から特別養護老人ホーム原町ホームのリネン交換のボランティア活動を行ってまいりました。
この度、この活動に対し感謝状を頂きました。



常楽寺再興400年報恩法要

えのき37号でもご紹介した原町の「常楽寺」が、平成27年11月23日に400年報恩法要を執り行いました。当日は、成城高等学校前から本堂まで、厳かな中にもきらびやかな装束をまとったご僧侶・お稚児さんの行列や舞等あり、400年の重みを感じさせる思い出深い日となりました。



地域センターからのお知らせ

東京消防庁感謝状

去る平成27年11月10日、牛込筆筒区民ホールにて東京消防庁より感謝状を頂きました。

「貴殿は平素から消防行政に深い関心をよせられ火災予防及び人命安全対策に多大な貢献をされました。ここに秋の火災予防運動にあたり深く感謝の意を表します。」

東京消防庁
牛込消防署長 上田伸次郎

これを励みに、地域の皆様に喜ばれるセンター運営を目指し、益々努力してまいります。



管理運営委員会の皆様と

ミニ音楽祭開催のお知らせ

当地域センターの登録団体による「第2回榎町地域センターミニ音楽祭」を開催いたします。コーラスや楽器演奏など、日頃の練習の成果をぜひご覧下さい。ご来場をお待ちしています。

日時 2月27日(土)

午後1時～3時(予定)

場所 榎町地域センター
4階多目的ホール

出演団体は未定です。

お問い合わせ：榎町地域センター 事務局
TEL(3202)8585

えのき文芸



はなれ来し隣家なつかし金木犀

飯田 もと子

紅葉の那須の湯宿に親子旅

奥瀬 イチ

秋日和ダムの放水虹を生み

加藤 理君

凧揚げがれ日本の絆此処にあり

金澤 誠

杜鵑草剪る手ためらふ花鏡

軽部 とみ子

指にまだ松茸裂きし香の残る

軽部 美沙子

白秋の雌伏の草舎落葉積む

川口 あきを

冬の海夜毎おだやかいさり火も

北村 妙子

紅葉散り山は静かに模様替へ

木村 政彦

木枯に舞い散る落葉音さむし

久根下 和子

朝まだきパン焼く句小六月

倉林 知子

遠くよりお雛子聞こゆ鰯雲

佐藤 琴美

江ノ島にエスカレーター冬ぬくし

菅原美智子

山深き平屋の里の霧しぐれ

中村 童子

ともに老い共に早起き師走かな

原 綾



のんびりと生きて大きなゴミになる

ああ言えはこう言う妻がいて平和

伊藤 三十六

ハンバーガー道路で喰へば安くなり

三猿を二の次にしてさあ行こう

菅野 あきら

捨て切れぬ過去と向き合い今日を生き

ホイサツサお猿の駕籠や福運ぶ

小山 一湖

残金が黒くて見えぬ改札機

新酒でた升に零れて口が先

田実 孜

亡母の歳越えて守られ八十路坂

奥瀬 イチ



目も耳もとぼしくなりし冬日和

曾孫の明るき電話ありたり

倉林 知子

なまこ壁堀の緋鯉の美しく

津和野の歴史偲びて歩む

小山 一湖



冬の花

クリスマスローズ (Christmas rose)

ヨーロッパ原産のキンポウゲ科の常緑多年草で、暖地ではクリスマス頃の頃から開花するのでこの名がある。



「家族の肖像」「技の伝承」「地域の歴史」の企画記事の情報をお寄せください。

広報誌「えのき」に関するご意見やお問い合わせ、情報提供も榎町地域センター事務局までお寄せ下さい。

「えのき」文芸に掲載の作品を募集しています。次号の俳句のお題は『冬』、川柳は自由吟です。投稿はハガキかファックスに、俳句・川柳の別を明記の上、3月10日(木)までに榎町地域センター事務局までお送りください。

〒162-0042
新宿区早稲田町85
TEL (3202) 8585
FAX (3202) 2478